



KIFA Plaza

鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第61号

2008年(平成20年)9月29日
 発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
 〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
 TEL 047-445-1141 (内550)
 FAX 047-441-9400
<http://www.kifa.gr.jp>

新しい世界を知る窓が開きました

2008年度・青少年ワカタネロングステイ派遣報告会

街も、学校も、家庭もコミュニケーションがいっぱい

日本のことを改めて認識しました——ワカタネから帰国した4人の学生たちは一様に述べた。清水聖士市長、渋谷定重副市長、川西八郎教育長、教育委員の皆川征夫さん、スカウト連絡協の平田真貴子さん、鎌ヶ谷高校の橋本洋子先生、市企画政策室長の山口清さんから来賓をはじめ、父兄、KIFAの関係者多数が出席。2008年度青少年ワカタネロングステイ派遣報告会が8月24日(日)、まなびいプラザで開かれた。



あいさつする清水市長。4人の体験スピーチを最後まで聞いて、「鎌ヶ谷の評判はどうでしたか。私も昨年ステイしました」と問いかけも。

2人は9月28日に行われる、KIFA主催の富士・河口湖方面へのバスツアーに参加する。

●報告会での4人のコメント(要旨)



クラライデント高校と一緒に

8月21日(木)に帰国したばかりの4人、竹内友理さん(大学1年、一般募集)、井上愛美さん、逆井朋子さん、山田ひかるさん(いずれも鎌ヶ谷高校2年、交換留学生)はそれぞれ、7月25日から約4週間のホームステイで学んだこと、体験したこと、喜びや感動を生き生きと語ってくれた。

現地で通うトライデント高校での自己紹介、4人一緒に合唱した宮崎駿監督「耳をすませば」のテーマソング「カントリーロード」は大変好評であったという。

彼女たちが滞在を終えて、帰国の途についた後、担当のポール先生からの最後のメールには、「私たちも一緒にいるのが大変楽しかった。私の日本語クラスの多くの生徒たちが、今後もコンタクトを続けることを約束していた。このような素晴らしい若者と会える機会が持てうれしい。彼女たちは素晴らしい親善大使の役割を果たした」と記されている。

今回のホストファミリーの家族で、トライデント高校生のJulia Ford(16歳)とJames Armenti(17歳)の2人が交換留学生として現在、鎌ヶ谷高校に通っている。



＊竹内 友理さん——帰国してみて、英語はもちろん、それ以上に日本語という言語に興味を持つようになりました。日本語クラスを受けて、その思いを強くしました。同時に改めて日本の文化に気づくことが出来、もっと日本のことを勉強したい意欲が高まってきました。



＊井上 愛美さん——Juliaの家では、食事はテレビのない部屋でみんな一緒に食べます。そこが家族の会話の場所になっていた。学校の授業でも、スタンプラリーのような英語学習で、街の人に質問したり、お店に行って質問したときは、みな快く答えてくれました。



＊逆井 朋子さん——私のステイした家は4人家族で、親切で、とてもやさしくしてくれました。お父さんとは散歩をしたり、夕食を作ったり、ビリヤードをしました。家でも学校でもそうでしたが、コミュニケーションができる言葉の素晴らしさを知ることが出来ました。



＊山田ひかるさん——ワカタネの街にはコミュニケーションがありました。日本にはない風景だと思いました。この留学を機に、これからも英語を学び他国のよさを知り、それ以上に日本のことを大事にしながら、日本の素晴らしさを伝え、手助けになるような仕事に就きたい。(4人のコメントは、KIFAのホームページに全文掲載してあります。そちらもアクセスしてみてください。)

交流部会発

「千葉大松戸園芸学部」のキャンパスには中国の学生らをはじめ、アジアを中心に韓国、タイ、パキスタン、インドネシア、ベトナム、カンボジア、ハンガリーなど、世界から100人を超す留学生たちが研究の日々を過ごしている。

交流部会では同学部の5人の中国人留学生を招き「話を聞く会」を開き市民交流の場を演出した。その後、「園芸学部国際交流委員会」から、KIFA執行部に留学生らによるバーベキューパーティへの招待状が届けられ、これに交流部会の有志が参加、親睦を深めた。

7月の交流部会の席上、このパーティに参加した部員から「現役留学生との交流をもっと幅広く進めたい」という意見希望が出され、部会としてもその方向性について意見が一致。「鎌ヶ谷市内だけに限定した国際交流だけでは、交流の機会、内容、満足度など物足り

ないと感じていた」とする意見も表明された。

これまで交流部会では、外国文化を知るイベントとして、「ASEANを知る」「外国家庭料理を学ぶ」など体験交流の会を開いてきたが、外国人の選択について、市内在住あるいは、なんらかの知己の人となると、範囲が限られ同じ人に登場を願うなど、多彩さに欠ける傾向があった。しかし、大学の現役留学生らとの交流は、これまでとは違った新鮮さを、主催者にも参加市民にもたらすので

はないだろうか。千葉大に限らず麗澤大学（柏）、神田外語大（幕張）にも輪を広げられれば、KIFAの新しい青少年交流の機会が増えることにもなる。

交流部会としては今後、交流・接触の門戸を広げ、これまでとは違った企画と機会を、市民に提供していくことにしたい。千葉大松戸園芸学部との交流・親睦は新しい事業企画のさきがけになったといえる。

「留学生交流」の機会を求めて

交流深める「千葉大留学生との親睦（松戸園芸学部）」

●千葉大中国人留学生の話を聞く会

今回のテーマは「中国人留学生の話を聞く会」として、「外国文化を知る会」が千葉大園芸学部の「国際交流委員会」（会長・游林敏さん）から5人の留学生を招き6月29日（日）、中央公民館にKIFAのメンバーを中心に、市民ら40人が参加して開かれた。



中国人留学生らと交流部会のスタッフ

5人の留学生は広大な中国（日本の約25倍の面積、13億人を超す人口）の各地から同学部に留学して、初めて知り合った学友たちでもある。当日は朝から強い雨で天候には恵まれなかったが、游林敏さん（女性、修士課程1年、福建省出身、留学生代表）、陸丹さん（女性、学部3年、北京市出身）、蘇日娜さん（女性、修士課程2年、内モンゴル自治区出身、前留学生代表）、栗剣さん（男性、学部4年、山東省出身）、高傑さん（男性、博士課程2年、山西省出身）が松戸のキャンパスから来てくれた。

5人はそれぞれ出身地の地勢的な特徴、歴史、民俗的な文化、祭り、料理などを、プロジェクター映像をフルに活用、視覚的に紹介してくれた。北京出身者から内モンゴル出身者まで、「これぞ中国だ」といえるような観光地、多彩な祭り、珍しい食べ物などが、次から次に紹介され「中国の魅力」に会場は「ホーッ、ヘーッ」と、感心したり驚いたり。彼らも学友の故郷について、初め



左から高傑、蘇日娜、陸丹、栗剣、游林敏のみなさん

て知ったというオチまで付いて、さすが中国は広くて、深いということを実感する3時間であった。

最後の質疑応答で、日本を選んだ理由、日本でよかったこととして①米国留学を目指して英語を学んでいたが、親から日本は西洋と東洋をうまく調和させていて、米国にはない良いところがある、と聞かされて日本に変更した②地理的に近いこと③漢字圏で安心感がある④日本人には温かく接してもらって安心している⑤松戸は東京に近くていい——などを挙げてくれた。

5人の留学生はエリート層で、日本語も立派にマスターしており、質疑応答も活発で中身も濃く、有意義な外国文化・中国を知る会であった。もっと多くの市民の参加者あればと、主催側としては残念であり、もったいなさを感じ、広報周知の力不足を反省させられた。

●バーベキューパーティに招待される

千葉大学園芸学部の留学生主催のバーベキューパーティが7月3日（木）の夜、松戸キャンパスで開かれ、高坂貞雄部会長はじめ6人の交流部会員が参加し交流を深めた。「中国人留学生の話を聞く会」に来てくれた游林敏さん、栗剣さん、陸丹さん、蘇日娜さん、高傑さんらも、ホスト・ホステスとして会を大いに盛り上げていた。

パーティ会場には飲み物や焼肉、煮物、ジャガイモ、おにぎりなど多くの食材が準備され、それらを楽しみながら各国語（日本語の他は英語など）で、にぎやかな会話の輪があちこちで作られていた。

交流部の6人も先日のお礼を述べ、新たな国々の学生たちも紹介され、たくさんの留学生を知る機会にもなった。

●日本語指導をご理解いただくために

★生活するための不可欠なもの

日本で暮らす外国から来た人たちが、必要としている日本語は、教育や価値観、それまでの経験や日本での生活基盤など、学習者の数だけの異なったニーズがある。鎌ヶ谷市内および周辺で生活をしている外国人たちも、その点は同じである。彼らに共通している点は、日本で生活するために必要不可欠なものとして、日本語教室で日本語を学んでいるということだ。日本人のKIFA会員が英語や中国語、ハンガルなどの語学を、生活を豊かにするために学ぶのとは異なっている。

★日本人ともっと仲良くなりたい

さらに言えることは、いろいろな国から来た人たちは、生活に必要な語学の習得という目的だけではなく、日本人ともっと仲良くなったり、他の国から来た人たちとも、交流したいと思っている。日本で出会った自国の人たちとの交際の場も求めている。そして、日本語を共通語として、他国の人の意見を聞き、自分の言いたいことが自由に表現ができる、楽しい場になることを求めている。

★バスツアーは楽しいイベント

通常の教室は、学習者の会話力などを配慮したクラス分けで学習を行っている。

『特別学習会』は7月と12月の



7月1日の七夕まつり

年2回。クラス分けの枠を取り払い、テキストを離れて、日本の文化に触れながら、自由に会話を楽しむ場である。日々の学習のエネルギーになっているのではないか。

『校外学習会』は小さな遠足といえる。教室の外へ出て、学習者同士の親睦と、実体験と場に応じた会話の勉強になっている。

『KIFAバスツアー』は学習者が楽しみにしている一大イベント。ふだん行って見たいと考えている日本の歴史・文化・名所も、個人的には出かけることに不安があるが、教室の仲間が一緒だと安心して出かけられる。

★日本語で日本語を指導する

「英語が話せるので、日本語を教えてみたい」と言ってくる人がいる。英語ができるから、外国人に日本語を教えられるというわけではない。外国人はみな英語を話す、と思っているとしたら理解不足といえる。

私たちボランティアは直接指導法という、日本語で日本語を指導している。そのために、研修を受け指導法を学んでいる。より良い指導を目指し、自主勉強会やレベルアップ研修会を行い、他市の研修会にも参加し、日頃から研鑽に務めている。

日本語教室は「人と人の出会いの場」であり、同時にお互いに学ぶ共生の場でもある。これからも楽しく学ぶ教室をめざしていきたい。

「日本語教室について思っていること」を外国人学習者に聞いてみました

◆特別学習会…「七夕まつり」はどうでしたか。

*楽しかったです *自分の国は、七夕がないので、私にとってすごく楽しかったです。

◆勉強していて、困っていること、楽しいこと、知りたいこと。

●困っていること…*とくにないです *日本語が難しい *助詞の使い方 *言葉がわからない *仕事が忙しくて教室に通うことができない。そのため、ひらがなの読み書きの勉強ができない

●楽しいこと…*新しい言葉を学べること *友達と会えること *教室が楽しい *勉強が楽しい *日本人と話すこと *バスツアーが楽しい *先生たちと一緒に勉強している他の国から来た人たちと会話ができること *教室に来て日本語を話すことができるようになり、日本に住むことができることが楽しみのひとつ

●知りたいこと…*日本語をもっと知りたい *もっと話ができるようになりたい *漢字を勉強し

たい *漢字を読みたい *日本語を話したい

◆日本語教室について

目的…*話せるようになりたい *日本人と話したい *流暢に話せるようになりたい *日本の文化や習慣が知りたい *日本語能力テストに受かりたい *いろいろな人と交流がしたい *もっと日本人と話ができるようになりたい *日本人とたくさん話したい

希望…*同じボランティアに習いたい *他のグループとの交流の時間がほしい *ゆっくりとした授業をしてほしい *1タームに1回くらい他グループとの交流の時間がほしい *1週間に2回教室があるとよい *日曜教室も毎週してほしい *小学校を訪ねて、学校の様子を知りたい

学習…*漢字やひらがななどの文字の学習がしたい *仕事で使える学習がしたい *地域の日本人と交流するための言葉を学習したい *書くことが上手になりたい *地図を読んだり、書いたりできるようにしたい



研修部会発

定着した「英会話サロン」

●本年度第1回サロんに市民39人参加

全員が英会話をエンジョイ——次回も参加したい。本年度第1回「英会話サロン」が6月22日(日)総合福祉保健センター大会議室で開かれ、「外国人と生の英語で話したい」「自分の英語力を試してみたい」など、10代から60代まで、世代を超えて市民39人が雨のなか集まった。

今回3人のゲストスピーカー(講師=写真右から)が出したテーマは次の通り。

Derek Smithさん(カナダ人)——私が何か一つチャレンジできるとすれば、それは何か? 世の中のことで、何か一つ変えることができるとすれば、それは何?

Christy Ballardさん(ニュージーランド人)——ニュージーランドのお国紹介、いろいろなお国自慢についてお話ししましょう!

Fan Xiaoyunさん(中国人)——中国の色々なお茶と料理、日本の茶道と中国の茶道の違いについて。

ゲストスピーカーが各5分間のスピーチの後、参加者は3つのテーブルに着席、講師がそれぞれ各テーブルを巡回して英語ディスカッション。お茶とお菓子をいただきながら英語の響きが会場に溢れていた。

アンケートによると、日常生活に関連した平易なテーマが希望されるようだ。難易度についても、有効回答の80%がちょうどよいとの回答。ほとんどの参加者が次回



も参加したいと答えている。少人数のグループが講師とともに、身近な話題につき英語で楽しく語り合う憩いの場(サロン)を設け2年目、「英会話サロン」がすっかり定着したといえそうだ。

研修部会では、これから多くの市民に楽しんでもらえるよう、工夫をした「サロン」にしていきたいとしている。

●次回サロンは10月5日に開催

好評の「英会話サロン」、本年度第2回も3人のゲストスピーカーを迎え、10月5日(日)の13時30分から総合福祉保健センター6階大会議室で開催します。

3人のゲストスピーカーとテーマは、次のとおり。

Mr. Derek Smith=How do you stay healthy?

Ms. Chan Cho Wai=I hope you like Hong Kong rice porridge.

Mr. Chris Ayesu=The Republic of Ghana before and now

(参加申し込みは当日、会場にても受付けます)。

KIFAパーティへのお誘い

会員および一般市民の交流を図るため、本年もKIFAパーティを開催いたします。交流の合間には、熱気あふれるパフォーマンス、バラエティに富むブース、多数参加のゲームなど盛りだくさんのお楽しみを用意しております。

日時 2008年11月9日(日) 13時30分～15時30分
受付開始 13時から

会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター(市役所裏) 6階大会議室

内容 立食式パーティ
(軽食、パフォーマンス、ゲーム、ブース、お茶席など)

参加費 会員 一般:1000円
大学生、高校生、中学生:500円
小学生:300円(幼児は無料)

会員以外 一般:1500円
大学生、高校生、中学生:700円
小学生:500円(幼児は無料)

(注)上記は前売券の金額です。当日券は500円増しとなります。

申し込み 10月24日(金)までに鎌ヶ谷市国際交流協会事務局(市役所3階)へ(受付:平日9時～16時)。あるいは、KIFA会員を通じてチケットを購入してください。チケット購入と同時に会員申し込みも可能です。

広報委員会発——編集後記に代えて

●KIFA Plazaの記録性、ホームページの速報性

広報委員会ではKIFAの活動内容や重要な通知を年4回(3月、6月、9月、12月)広報誌『KIFAPLaza』を通じて、会員(募集事項など会員優先情報)と市民に広く活動状況を周知している。内容については主として記録性を優先している。

一方、ホームページを通じて、社会に広くKIFA活動の成果を、写真、ビジュアルを中心に適宜更新、世界に公開している。現在の広報委において最大のテーマは、英語、中国語、ハンガール、ポルトガル語など、外国語ページの開設で、これら言語に堪能なうえ、Webにも知識のあるボランティアの参加を願っている。

広報委員会の活動内容を知ってもらい、国際交流活動について1人でも多くの人に、知ってもらうため「ホームページ」を更新、新しい会員の参加を願って、ボランティア活動に参加しやすい広報活動を心がけている。ぜひ一度、ご覧いただき、ご意見ご感想をお寄せください。
⇒<http://www.kifa.gr.jp/>